



# 笹中だより

伊丹市立笹原中学校 学校通信  
第2号 平成30年4月17日  
編集責任者 校長 菰口太志

## 【もくもく清掃&給食スタート!】～最初が肝心～

あわただしい、4月の1週目が終わりましたが、みなさん新学期の学校生活には慣れたでしょうか?先週木曜日から、笹中自慢の1つである「もくもく清掃」がスタートしました。どの学年も集中して清掃に取り組んでいる姿が見られ、よいスタートが切れていましたね。またこの日から3学年そろっての給食がスタートしました。1年生は笹中入学後初めての給食でしたので、少し準備に時間がかかったようですが、さすが2・3年生は手際がよかったです。1年生にとっては、最初は給食の量が少し多いかもしれませんが、これも慣れです。笹中伝統の「残食ゼロ」を目指してがんばりましょう。給食センターの方々や生産者の方々が、苦勞や工夫を重ねてつくってくださっています。感謝の気持ちで「いただきます」「ごちそうさま」をお願いします。



## 【始業式】「入学式」のお話のポイント

始業式(4月9日)と入学式(4月11日)でお話したポイントについて載せておきます。もう一度頭の中に入れておいてもらえるとありがたいです。

### 【始業式】

- ①「夢」や「目標」をもってください。
- ②学力をつけてください。～「見える学力」と「見えない学力」の両方をバランスよく～
- ③「授業」「行事」「部活動」の3つを大切に。

### 【入学式】

- (前提)「中学校は大人になるための準備をする学校」
- ①「凡事徹底(ぼんじてっい)」・・・当たり前のことを当たり前として実行してください。
  - ②「授業」「行事」「部活動」の3つを大切に。  
～「見える学力」と「見えない学力」の両方をバランスよく身につけてください～
  - ③「5つの“ち”」を大切に。  
～「いのち」「気持ち」「友だち」「実地(じっち)」「自治(じち)」

## 【ノー部活デー】「ノー会議デー」「定時退勤日」～生徒と向き合う時間を生み出す～

今年度も教職員の「業務改善・勤務時間の適正化」に向けて取り組んでまいります。業務改善により、時間を生み出し、個々の生徒と向き合う時間を生み出します。また、教職員が心身ともに元気はつらつとすることで、はじめて生徒たちに対して、健全な教育ができます。兵庫県および伊丹市教育委員会の方針のもと、「ノー部活デー」「ノー会議デー」「定時退勤日」等を設定して参りますので、保護者の皆さまのご理解・ご協力のほどお願いいたします。

## 【家庭訪問・オープンスクール】よろしくお願ひいたします。

- 家庭訪問：4月24日(火)～26日(木)、5月1日(火)・2日(水)5日間
- オープンスクール：4月27日(金)
  - ②校時：1年林間説明会
  - ④校時：2年トライやる説明会
  - ⑤校時：3年修学旅行説明会
  - ⑥：PTA総会

## 【学校目標達成に向けての努力点10箇条】

笹中だより第1号でお知らせしました「学校教育目標」の具現化に向けて、全教職員で確認した「努力点10箇条」についてお知らせします。

## 学校教育目標に向けて10箇条

### 学校教育目標

自ら勉学に励み、自ら心身を鍛え、自ら進路を切り開く創造的な生徒の育成

### <<努力点10箇条>>

1. 自分子どもを通わせたい学校  
「笹中に行かせたい」「笹中でよかった」と思えるような学校にしたい。「生徒ファースト」「保護者目線」で子どもたちと関わっていききたいと思ひます。
2. 教育課程の確実な実施  
授業は「1時間、1時間が勝負」。「妥協することなく」子どもたちと真剣に向き合ひます。
3. 当たり前のことを当たり前に行って「凡事徹底(ぼんじてっい)」  
「教師の率先垂範(背中のみせる)」が何よりの学習だと考えます。「妥協しない指導」で生徒との信頼関係を築いていきます。
4. 無理のない挑戦を続ける「前年踏襲からの脱却」  
「授業」「行事」「生徒会」「部活動」において「去年どおり」ではなく、+1(プラスワン)の創造性を持って取り組んでいきます。
5. 「おたがいさま」の文化を築く  
教職員同士が「声かけ」「目配り」「気配り」をすることで、困った時は互いに協力するという文化を築いていきます。
6. 組織で対応「即連絡・即相談・即報告」  
お互いに、小さな変化もすぐに伝えることで、「問題行動」「いじめ」「不登校」の未然防止・早期発見・早期解決に担任ひとりではなく、組織で対応していきます。
7. 地域の教育力の導入による開かれた学校づくり  
地域の力、協力を得て、Win-Winの関係性を築き、地域に貢献できる生徒・教師を育てます。
8. 危機管理「事故の予見と安全確保」  
「子どもの命」「教職員の命」を大切にし、「アレルギー対応」「学校行事」「部活動」など、学校生活において常に危機管理意識を持って行動します。
9. 学校評価等の活用によるR-PDCAサイクルの確立  
定期的にアンケートを行い、改善していきます。R-PDCAとは、R：調査、P：計画、D：実行、C：評価、A：改善です。
10. 若手教員が伸びる学校＝生徒が伸びる学校  
「後輩を育てる先輩」「先輩から学ぶ後輩」「主体的な研修」という意識を教職員にもたせ「授業改善」「業務改善」を図っていきます。そのことによって、自然に生徒も伸びていくと考えます。